

じぶんの
町を
良くする
み。

赤い羽根共同募金と見守りネットワーク

高島市の地域福祉を支える 赤い羽根共同募金の役割



じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

地域福祉を推進する民間財源としての共同募金

赤い羽根共同募金は「地域をつくる市民を応援する共同募金」として、「じぶんの町を良くするしくみ。」をテーマに地域福祉の推進を図っています。近年、住民同士の見守りや支えあいを基盤とした地域福祉の実現が求められていますが、共同募金は、住民・ボランティアにより取り組まれているこれらの活動を財源面から支えています。

誰もが地域福祉の主体として参加するための身近なお金

時代は行政主導・行政任せの福祉から、住民が主体的に参加する福祉へと変わりつつあります。それにともない、地域の福祉課題の解決に取り組むボランティア・NPO活動等も飛躍的に増加しています。このような活動を継続的にこなすためには財源が必要ですが、公的財源では柔軟性、即時性、多様性、地域の固有性等に対応しづらい側面があります。

共同募金は、地域の福祉課題解決を進める団体等に対して助成をおこなう“民間の募金”です。

みんなで決めて、みんなで集める共同募金

では、そもそも地域で解決すべき課題は何か、住民主体で取り組むべきことは何かを明らかにしなければなりません。それらについて、多くの地域住民が意見を出しあい、話しあって計画化したものが「高島市地域福祉推進計画」です。その計画に取り組むべき課題として挙げられた事柄に共同募金が助成し、自治会やボランティア団体等の取り組みが行われてこそ、みんなが納得して募金に協力し、「地域で集めて地域で使う」ということが、意味あるものになるのです。

赤い羽根共同募金「地域の新たな支えあい基金」により はじまった、見守りネットワーク事業

ますます複雑・多様化する福祉課題解決のために

地域のつながりが薄れ、「無縁社会」という言葉が実感をともなう昨今の社会において、公的なサービスをはじめとした、既存の支援では十分に対応できない福祉課題が生じています。

特に、社会的孤立・孤独にある人が増加し、問題を抱えたまま深刻な状態になるまで発見されないということが、あらゆる年代で起こっています。認知症や精神疾患の発症や進行、衛生・栄養状態の悪化、重い介護負担・育児負担が原因となった虐待、経済的な困窮、詐欺などの消費者被害、自殺などの社会的問題が、私たちの身近な地域でも起こっています。

新たな支えあいの仕組みを考え、実行するモデルとして

このような多様な福祉課題に対して、様々な立場の人々が参加し、公民が協働して新たな仕組みをつくりあげていくことを支援するため、赤い羽根共同募金で「地域の新たな支えあい基金」（以下、基金と略）が設けられました。そして、この基金を活用したモデル事業を、高島市社会福祉協議会が平成22年度から平成24年度までの約2年半にわたって受託することができました。

高島市社会福祉協議会ではこの基金をもとにして、高島市地域福祉推進計画で重点課題とされた「見守りネットワーク」の仕組みづくりを進めることとしました。

見守りネットワーク事業の取り組み団体に約120万円の助成

平成23年度は、見守りネットワーク事業の提案に賛同し、取り組みをはじめた自治会等26団体の初動経費として、最高5万円を上限に、基金から総額約120万円を助成することで、活動に弾みをつける大きな役割を果たしています。

継続的な取り組みを進めるために

基金事業は2年半で終わっても、すべての福祉課題が解決されるものではありません。高島市が将来にわたって安心して暮らせるまちであるためには、住民による見守りや、ふれあいサロンなどのつどいの場づくり、一人ひとりの生活を支え、豊かにするボランティア活動等の活性化、住民参加で課題を明らかにし、取り組みを計画的に進める地域福祉推進計画の進行管理など、様々な取り組み等が継続して必要となります。

今後も、高島市の地域のことを地域住民みんなで考え、みんなで活動を進めていくことができるよう、共同募金運動へのご参加をどうぞよろしくお願いいたします。

じよんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金